

平成24年度後志総合振興局管内訪日外国人宿泊客数調査の概要

(平成25年6月13日 修正)

1 調査基本事項

(1) 調査内容

後志管内全20市町村による宿泊施設等における外国人宿泊客の調査結果を集計。

(2) 調査対象期間

平成24年4月1日～平成25年3月31日

(3) 調査項目

①国別宿泊客実人数 ②国別宿泊客延人数

参 考～宿泊施設等とは、旅館業法第2条の規定による次の施設及び船舶。

- ①ホ テ ル～シティホテル、リゾートホテル など
 - ②旅 館～旅館、公営宿泊施設 など
 - ③簡易宿所～ペンション、民宿 など
 - ④そ の 他～船舶（観光目的で入国した者が宿泊した場合のみ）
- ※上記の内、カプセルホテル、同伴ホテル等は除く。

2 調査結果概要

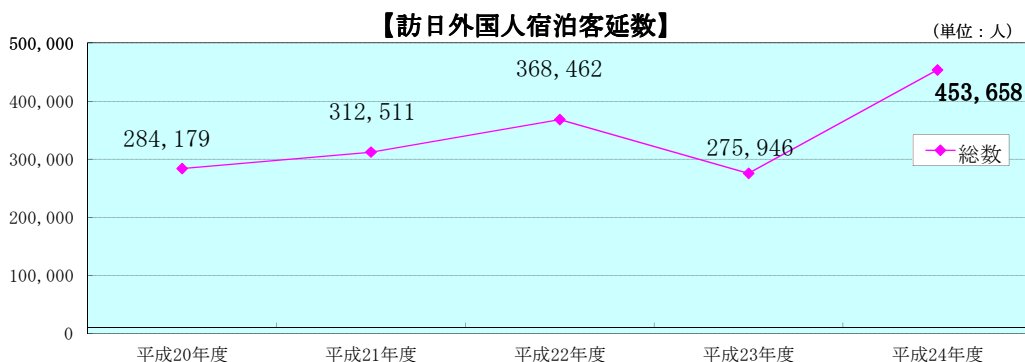
(1) 外国人宿泊客延数の状況

平成24年度における後志総合振興局管内の外国人宿泊客延数は、45万3,658人で、前年度と比較し64.4%増、17万7,712人増加した。

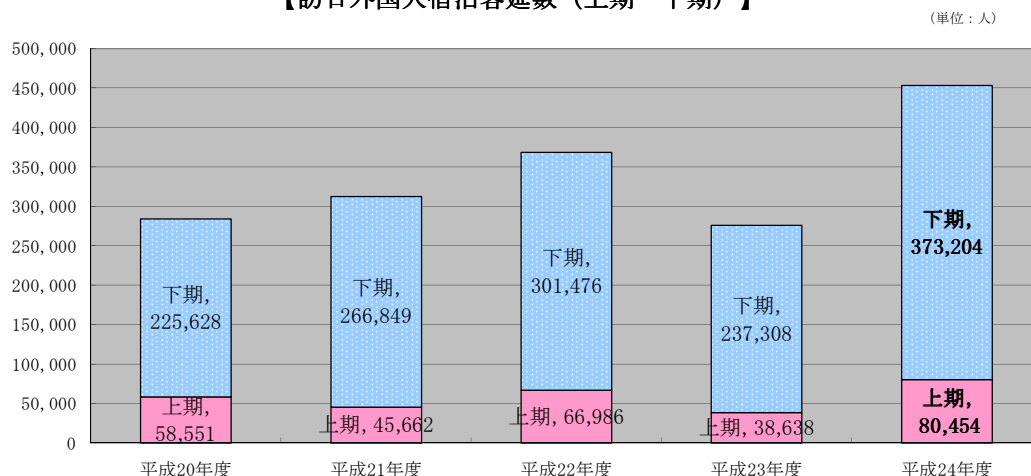
上期は前年比108.2%増、4万1,816人増加で8万454人、下期は前年比57.3%増、13万5,896人増加で37万3,204人となり、東日本大震災前に最も多かった平成22年度の36万8,462人と比べても8万5,196人、23.1%増加となり、宿泊客延数は過去10年間で最多となった。

増加の理由としては、東日本大震災の影響による訪日旅行に対する不安の解消により、冬期間においてオーストラリアをはじめとする各国からの宿泊客が大幅に増加したことがもっとも大きな要因と考えられる。

また、タイなどとの海外直行便の就航や最近の円安傾向なども大幅増加の要因と考えられる。



【訪日外国人宿泊客延数（上期・下期）】

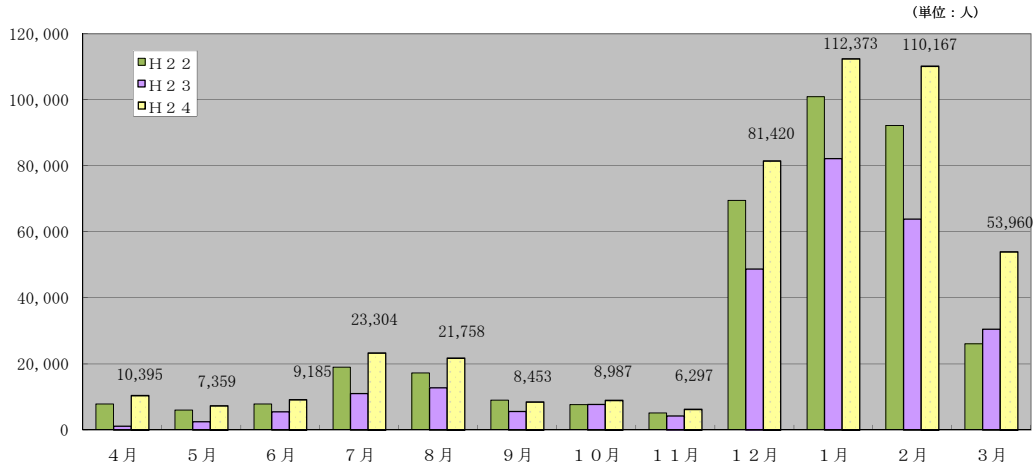


(2) 月毎の推移

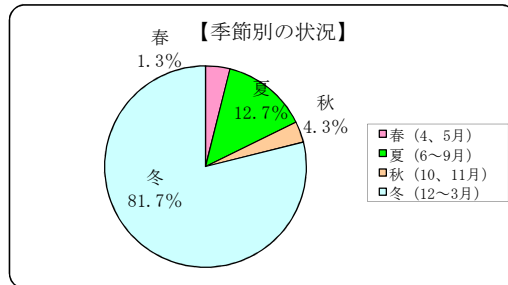
月別に見ると、例年同様、12月～3月が多く、全体の約80%を占めている。
 4月～7月は前年度の約2.5倍と、東日本大震災の影響からの回復が顕著に見られる。
 また、過去最多であった平成22年度と比較しても、9月を除き増加している。
 冬季における大幅な増加には、円安傾向が一つの要因となっていると推測される。

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年度	10,395	7,359	9,185	23,304	21,758	8,453	8,987	6,297	81,420	112,373	110,167	53,960	453,658
平成23年度	1,123	2,538	5,478	11,085	12,781	5,633	7,707	4,257	48,798	82,178	63,865	30,503	275,946
対前年比	925.6%	290.0%	167.7%	210.2%	170.2%	150.1%	116.6%	147.9%	166.9%	136.7%	172.5%	176.9%	164.4%
平成22年度	7,815	6,007	7,871	19,030	17,244	9,019	7,668	5,097	69,490	100,928	92,218	26,075	368,462
対H22年比	133.0%	122.5%	116.7%	122.5%	126.2%	93.7%	117.2%	123.5%	117.2%	111.3%	119.5%	206.9%	123.1%



(3) 季節別外国人宿泊客延数の状況



平成23年度の、春季・夏季は大きく落ち込んだため、平成24年度はその反動として、春季485% (14,093人)、夏季179% (27,723人) の大幅な増加となっている。

		春 (4、5月)	夏 (6～9月)	秋 (10、11月)	冬 (12～3月)
平成24年度	宿泊客延数	17,754人	62,700人	15,284人	357,920人
	構成比	3.9%	13.8%	3.4%	78.9%
平成23年度	宿泊客延数	3,661人	34,977人	11,964人	225,344人
	構成比	1.3%	12.7%	4.3%	81.7%
対前年比		484.9%	179.3%	127.7%	158.8%
平成22年度	宿泊客延数	13,822人	53,164人	12,765人	288,711人
	構成比	3.8%	14.4%	3.5%	78.4%
対H22年度年比		128%	118%	120%	124%

(4) 宿泊延数上位5市町村（1万人以上）

市町村別では、倶知安町が22万8,345人と最も多く、全体の約半数を占めている。

上位5市町村で管内の外国人宿泊客延数の99.6%を占めている。

倶知安町では、オーストラリアが前年より大きく増え、56.0%と半数以上となっている。

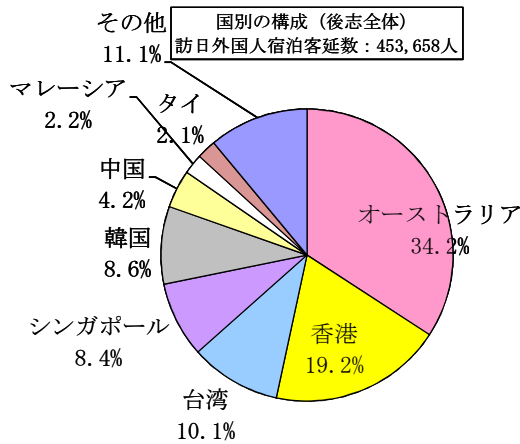
ニセコ町では、台湾が大きく増え、1万人を超えた。

小樽市では、香港、韓国、台湾は増加したが、前年香港に次いで多かった中国が、前年比77.1%に減少した。

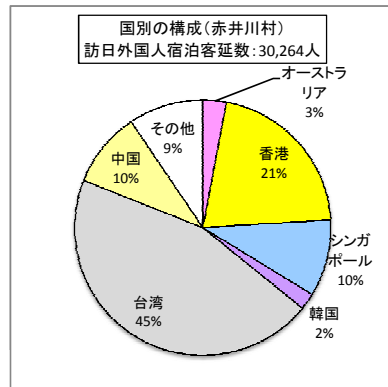
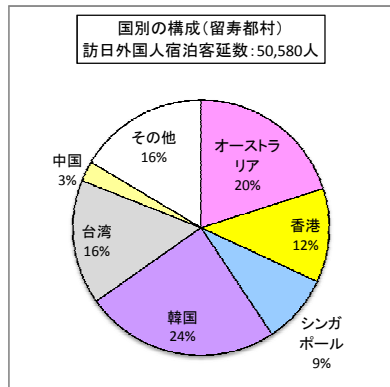
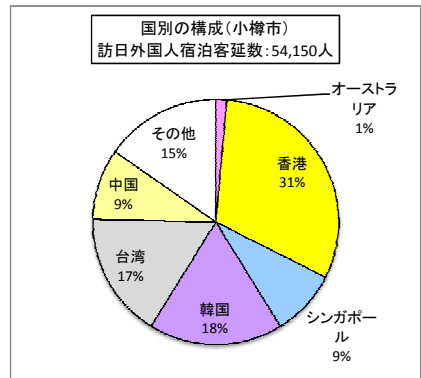
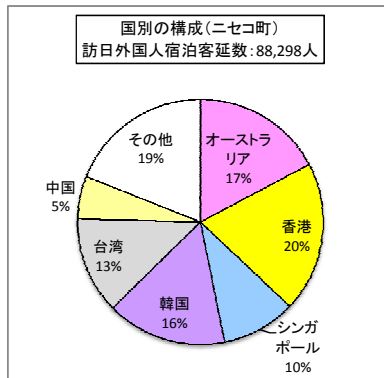
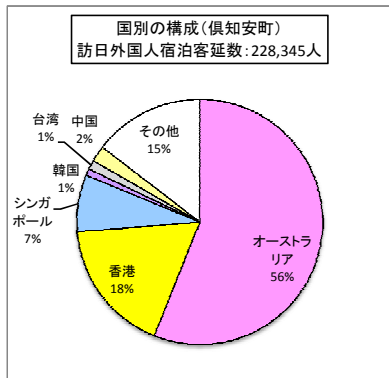
留寿都村では、豪州が前年比217.4%と大きく増えている。

赤井川村では、中国が前年比367.6%、台湾が前年比149.5%、香港が前年比180.9%と大きく増えている。

	宿泊客延数	対前年比	主要国	構成比
倶知安町	228,345人	177.0%	オーストラリア128.0千人(56.0%)、香港40.3千人(17.7%)、シンガポール17.1千人(7.5%)	46.7%
ニセコ町	88,298人	161.4%	香港17.6千人(19.9%)、オーストラリア15.2千人(17.2%)、韓国13.9千人(15.8%)	19.8%
小樽市	54,150人	138.2%	香港16.8千人(31.1%)、韓国9.5千人(17.6%)、台湾9.0千人(16.6%)	14.2%
留寿都村	50,580人	143.2%	韓国12.4千人(24.5%)、オーストラリア10.1千人(20.0%)、台湾8.0千人(15.8%)	12.8%
赤井川村	30,264人	176.3%	台湾13.7千人(45.2%)、香港6.4千人(21.0%)、シンガポール3.0千人(9.8%)	6.2%



上位5市町村（倶知安町・ニセコ町・小樽市・留寿都村・赤井川村）



(5) 宿泊客延数上位6ヵ国（宿泊客延数過去5年間の推移、月別宿泊客延数）

上位6ヵ国では、いずれの国においても前年より増加し、特にオーストラリアと台湾では、前年比180%以上の大幅な増加となっている。

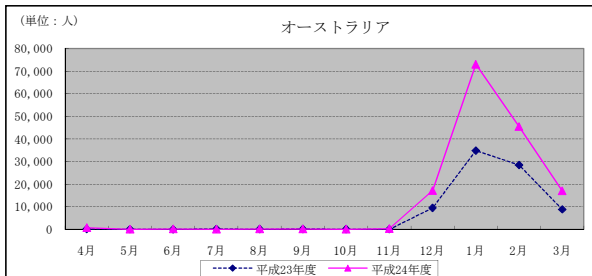
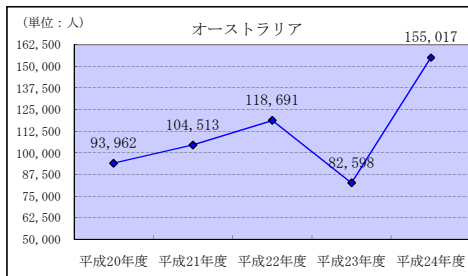
香港、中国を除き、震災前にもっとも多かった平成22年度を超え過去最多となっている。

	宿泊延数	対前年比	対前年度増減数	平均泊数	構成比
オーストラリア	155,017人	187.7%	72,419人	5.0泊	34.2%
香港	87,184人	145.7%	27,351人	2.2泊	19.2%
台湾	45,595人	180.3%	20,313人	1.4泊	10.1%
韓国	38,950人	151.3%	13,213人	1.4泊	8.6%
シンガポール	37,938人	155.1%	13,474人	2.1泊	8.4%
中国	19,100人	112.5%	2,129人	1.6泊	4.2%

◎平均泊数（上位6ヵ国）

	平均泊数	倶知安町	倶知安町を除く管内全体
オーストラリア	6.7泊	2.2泊	
香港	5.4泊	1.5泊	
シンガポール	5.1泊	1.4泊	
韓国	3.7泊	1.3泊	
台湾	3.4泊	1.4泊	
中国	4.4泊	1.3泊	

【オーストラリア】



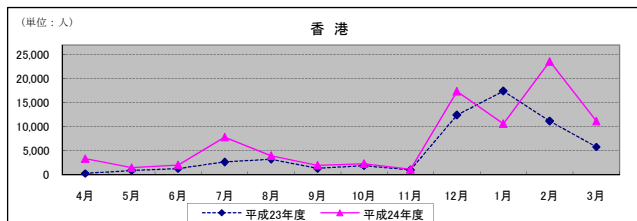
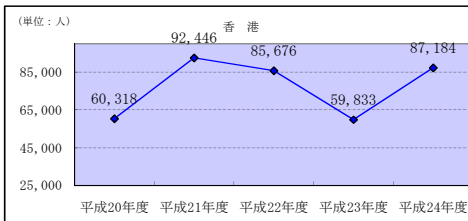
・オーストラリアは、対前年比187.7%(72,419人)と大きく増加した。

・上位5市町村では、ニセコ町、留寿都村、赤井川村で前年の2倍以上となっている。倶知安町でも、前年比187.7%と大幅に増えている。スキーリゾートに滞在するオーストラリア人が多く、降雪に恵まれたこともあり、1月が年間の47.1%を占めている。

◎対前年増減数

倶知安町58,517人、ニセコ町7,678人、留寿都村5,474人、小樽市119人

【香港】



・香港は、対前年比145.7%(27,361人)と前年より増加したが、平成21年度(92,446人)より少ない。

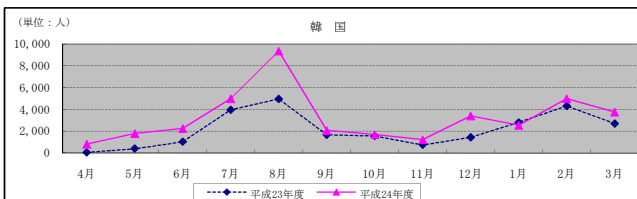
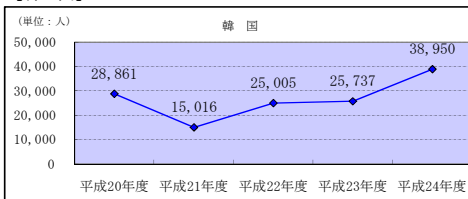
・上位5市町村すべてで増加し、特に倶知安町(162.5%)と赤井川村(180.9%)が大幅な増加となった。

・1月と2月の前年との増減逆転は、旧正月の時期(平成25年度は2月、平成24年度は1月)の影響によるものと推察される。

◎対前年増減数

倶知安町15,517人、ニセコ町4,958人、小樽市3,202人、赤井川村2,847人、留寿都村754人

【韓国】



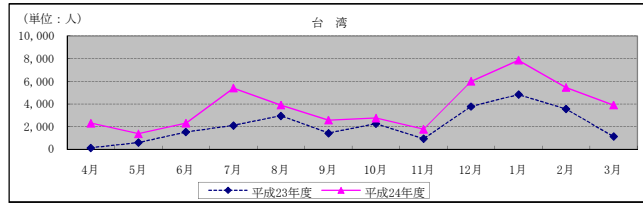
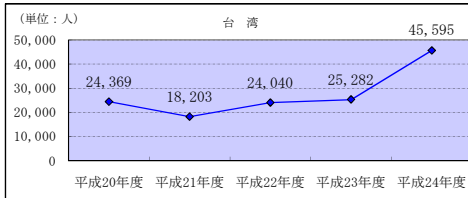
・韓国は、上期の大幅な増加により、3年連続で増加し、3万人を超えた。

・上位5市町村すべてで増加し、特にニセコ町(172.1%)、小樽市(170.6%)、倶知安町(164.4%)が大幅な増加となった。

◎対前年増減数

ニセコ町5,830人、小樽市3,940人、留寿都村2,252人、倶知安町778人、赤井川村147人

【台湾】



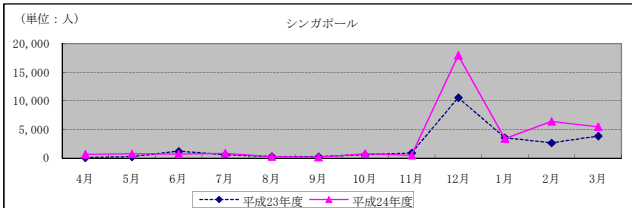
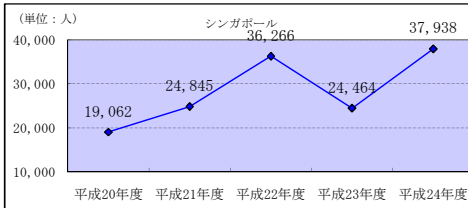
・台湾は、3年連続の増加、全ての月において前年同月を上回る結果となった。

・上位5市町村すべてで増加し、特にニセコ町(248.1%)と倶知安町(206.7%)が2倍以上の増加となった。

◎対前年増減数

ニセコ町6,744人、小樽市4,119人、赤井川村4,526人、留寿都村2,720人、倶知安町1,448人

【シンガポール】



・シンガポールは、対前年比155.1%(37,938人)と増加し、過去10年間で最多となった。

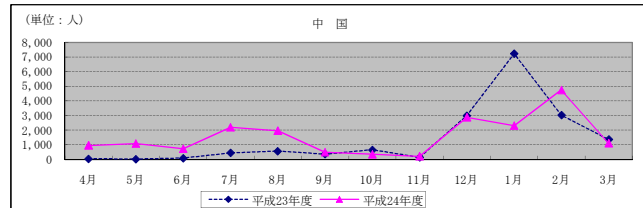
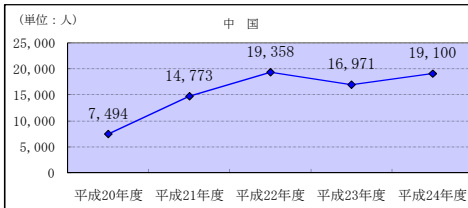
・12月が最も多く、17,946人と年間の47.3%を占めている。

・上位5市町村すべてで増加し、特に倶知安町(181.9%)とニセコ町(164.6%)が大幅な増加となった。

◎対前年増減数

倶知安町7,723人、ニセコ町3,388人、小樽市1,641人、赤井川村548人、留寿都村148人

【中国】



・中国は、上半期は前年より増加したが、下半期は2月を除いて減少し、年間としては平成22年度に及ばなかった。

・上位5市町村では、倶知安町、赤井川村、留寿都村では増加したものの、ニセコ町、小樽市では減少となった。

・1月と2月の前年との増減逆転は、旧正月の時期（平成25年度は2月、平成24年度は1月）の影響によるものと推察される。

◎対前年増減数

赤井川村2,103人、倶知安町1,811人、留寿都村306人、ニセコ町△588人、小樽市△1,507人

(6) その他

アジアからの訪日外国人が増加しており、マレーシアが10,073人（208.3%）、10月より新千歳空港に直行便が就航したタイが9,665人（445.0%）と大幅に増えている。

また、アメリカも冬季を中心に増加し、9,723人（155.6%）となっている。